

厚生労働大臣賞

小学生の部



「幸せのプレゼント」

館林市立第二小学校
6年 須藤 向陽さん

僕の家での仕事は、弟をお風呂に入れることだ。弟には知的障害があり、一人でお風呂に入ることができない。生まれつきの病気のために何度も入院したり手術したりしている。お風呂で体を洗ってあげると、心臓の手術をした跡や足の手術をした跡が分かる。

弟は小学三年生だが、僕と同じ小学校ではなく、特別支援学校に通っている。僕は弟と一緒に通えることが残念と感じることもあるが、正直ちょっとほっとするよつな複雑な気持ちだ。

僕の弟は話すことができない。自分のやりたいこ

とや気持ちを伝えることはできるが、言葉として分かることは「アンパンマン」「くらいだ。言葉にならぬ、ほとんどが奇声と言われるような声になってしまつ。弟が大きな声を出していると、僕が恥ずかしくなることもあるし、嫌な気分になることもある。弟は何かを伝えたいのかもしれないし、声を出すなどいつでも伝わらないし、僕も家族みんなもどついたらいいか分からないときがある。かわいい弟なのだが、一緒にいるのが嫌だと感じてしまつことに、僕自身が嫌になることもある。

弟の「幸せ」というのはどのようなものなのだろうと僕は考えた。弟はいつもニコニコしている。その笑顔は何から生まれるものなのだろう。家族と一緒にいること、おいしいものを食べること、お出かけすること、音楽を聞くこと。弟の好きなことは弟を幸せにするし、笑顔にする。

僕にできる弟への幸せと笑顔のプレゼントは何なのか。今の弟の幸せは、家族みんなが弟の側にいてあげることだと思う。家族の誰かが出かけていたら外に出て帰りを待つほどに、弟は家族のことが好き

だ。でも母は、いつまでもずっと一緒にいることはできないと言っていた。僕も大きくなったら進学や就職で一人暮らしをすることもあるから、そのとき弟はどっ思っのだろうか。

母に聞いてみた。母は、弟もひとりでできることが増えるように家でも支援学校でも頑張っているから、離れて暮らすことになってもきつと大丈夫と言う。今、弟を幸せいっばいにしてあげればいいと言っていた。

今度、居住地校交流といって、弟が僕の小学校に来る予定がある。僕は学校みんなに弟を紹介したい。ときどき出てしまう大きな声は、やっぱりちよつと恥ずかしいけれども弟のニコニコした笑顔を見たらきつとみんな弟を好きになると思う。そんな笑顔を絶やさないように、僕から弟に幸せのプレゼントをしていきたい。